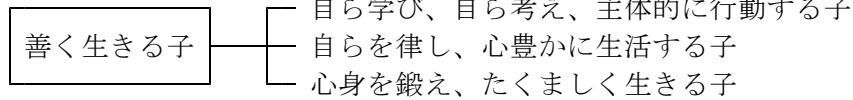


平成28年度 校内現職教育について

1 研究の概要

(1) 教育目標

「善く生きる子」の育成を目標とし、知・徳・体の調和のとれた教育により、豊かな人間性とたくましい体をはぐくみ、心身ともに健やかな児童の育成を図る。



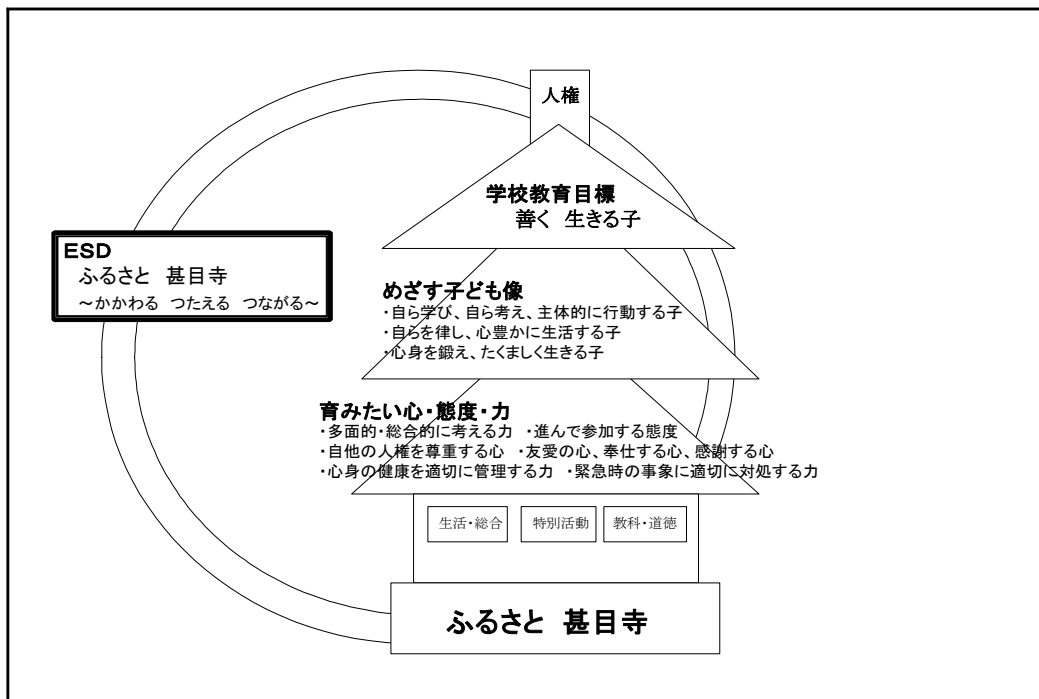
(2) ESDの活動テーマ

ふるさと 甚目寺 ーかかわる つたえる つながるー

(3) 育みたい心・態度・力

- ・ 多面的・総合的に考える力
- ・ 進んで参加する態度
- ・ 自他の人権を尊重する心
- ・ 友愛の心、奉仕する心、感謝する心
- ・ 心身の健康を適切に管理する力
- ・ 緊急時の事象に適切に対処する力

(4) 学校教育活動の構想図



(5) 今年度の取組方針

ア 人とのかかわり合いに焦点を当てた研究

- ・ 国語や学活でのコミュニケーションスキルのトレーニングを目指した授業実践。
(今まで行っていた4年でのソーシャルスキルトレーニング、5年でのハッピートークトレーニング、6年でのアサーショントレーニングを含む)

イ 認識の「高まり」を組み込んだ様々な教科での授業実践

※ 昨年度の「高め合い」は、「話し合い」の中での認識の「高まり」であった。本年度は、それを教材提示の工夫や教師の発問等からも引き出し、「話し合い」にこだわらず、広く他教科へ普及させていきたい。

(「甚小ESDの話し合いに役立つ思考スキル・定義・展開例」を基に実践する)

ウ シンキングツールの活用

- ・ 認識の「高まり」にはシンキングツールが有効である。積極的な活用を図る。
- ・ 授業参観でシンキングツールを取り入れた実践を行う。
- ・ 学校訪問では、シンキングツールを取り入れた授業に積極的に取り組む。
- ・ 教室には頻繁にシンキングツール活用例を掲示する。

エ 「人の思い」に焦点を当てたE S D道德の積み上げは、引き続き継続研究とする。

- ・ 授業参観や学校訪問等で実践した道德資料の蓄積。

オ 人とのかかわり合いの場としてのE S D

(ア) 各学年のE S D活動テーマ

- | | |
|---------------------|------------------|
| 1年：学校周辺や幼稚園・保育園との交流 | 2年：地域の商店街や施設との交流 |
| 3年：地域の福祉 | 4年：地域の自然環境 |
| 5年：地域の産業 | 6年：地域の文化遺産 |

(イ) 関わり合いの実践

- ・ 地域の人々の人材活用による地域を知る活動
- ・ 地域で学んだことを発信する活動
- ・ 地域に貢献するための具体的な行動

カ E S Dカレンダーの見直し

- ・ 教研提案者への協力のため、5月連休明け頃を第一次見直し期間とし、夏休み明けまでに見直しを完成させる。

キ 理数教育の充実

初任者、少経験者（3年以下）を対象とした算数の授業研究を鈴木公司先生を講師に招いて行い、少人数指導も継続する。

(6) 今年度の校内研究の研究主題

人とのかかわり合いを大切にし、思いを高めるE S D活動

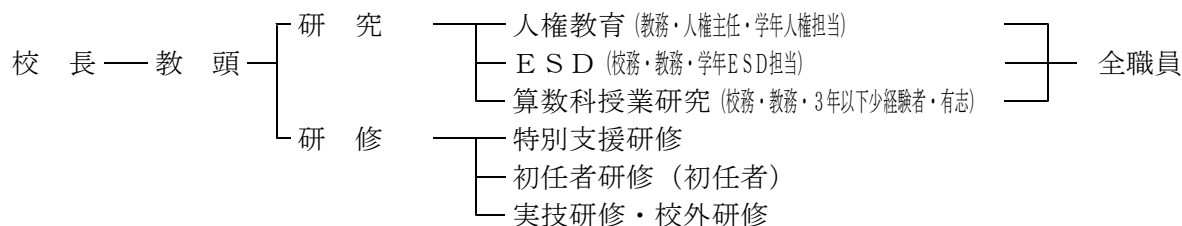
ーコミュニケーションスキルの活用を通してー

E S Dの研究は、今年度で7年目を迎える。E S D自体が「持続可能」であるように、本校の取組も息の長いものでなければならない。今までの研究の経過を振り返ってみると、平成 22 年度は、準備期間として県の教育センターでの研修が始まった年であった。平成 23 年度は、今までの総合的な学習の時間と生活科での実践をE S Dの視点で見直し、E S Dカレンダーを作成し実践を行った。E S D実践元年がこの年といえる。平成 24 年度は、「かかわる」「つたえる」「つながる」をキーワードに活動が見直された。平成 25 年度は、話し合い活動に着目し、児童が進んで取り組めるようにした。この年、K J法やウェビングマップなど、今につながるシンキングツールに注目した年であった。平成 26 年度は、情意面に注目し、道德の授業との連携を強化し、道德的心情を高めるようにした。「人の思い」に注目するという新たな視点を獲得した年であった。平成 27 年度は、甚小話し合いの流れである、傾聴→仕分け→高め合いの三つ目である「高め合い」に注目した。シンキングツールを使って仕分けされた意見をいかに分析するかに焦点を当てた。実践の積み上げにより、様々な方法が出され、研修会も行われ、最終的に「甚小E S Dの話し合いに役立つ思考スキル・定義・展開例」に集約された。

そして今年度は、コミュニケーションスキルの活用に焦点を当てていきたい。今までも人権教育や話し合いの「傾聴」という場面で、コミュニケーションスキルは育てられてきた。昨年度にいたっては、全学年がE S Dカレンダーに位置づけて実践を行ってきた。しかし、ややもすると今まで行われてきた人権教育という枠組みで捉えられ、それがうまくE S Dの中で機能してきたとはいいがたい。そこで今年度は、この部分の改善を図り、E S Dの活動との連携を強化し、コミュニケーションスキルの育成が、その後のE S Dの活動と直結する形でどの学年も見直しが図れたらと考える。また、甚目寺小には、聞く・話す・話し合い能力表と学習スキルがあるが、それをインタビューや発表という視点を入れたものに改善を図っていきたい。

※ 思いとは、道德で積み上げてきた「人の思い」つまり他者理解として取り組むことも可能であるし、自分たちの思いを次への活動につなげたり、高めたりして取り組むことも出来る。

(7) 研究組織



※ 相談・依頼は必ず会合をもつ必要はなく、書面での依頼・相談も適宜行う。

※ 全職員への相談・依頼は、職員会議や毎日の打ち合わせで行う。

(8) 実施計画

研 究 ・ 研 修 内 容 等		
月	実 施 計 画	実 施 内 容
4	・研究推進体制の確立	・本年度の校内研究についての提案
5	・具体的な取組の方法	・各学年で ESD カレンダー、指導計画等をもとに本年度の具体的な取組を確認
6	・現職教育研究協議会	・総合的な学習での発表
8	・具体的な取組の見直し	・各学年で本年度の取組の見直しと ESD カレンダー、指導計画等の訂正
10	・現職教育研究集会 ・全校一斉の道徳授業公開	・総合的な学習での発表 ・高め合いの授業やシンキングツールを使った授業提案
1	・アンケート調査	・児童向けアンケートの実施
2	・校内研究のまとめ	・各学年が校内研究のまとめの原稿を提出
3	・本年度のまとめと次年度に向けて ・校内研究のまとめ	・校内研究の成果と課題、次年度の校内研究に向けての検討会 ・研究冊子の完成と職員への配布

※ 各種研修（校内・校外）は、随時追加する。

※ 研究授業の実施は、計画的に行う。 ※ 学校訪問は、1学期を予定。